第 2 講 【系統地理編】気候
PART 3 世界の気候

Chapter 1 世界の気候①

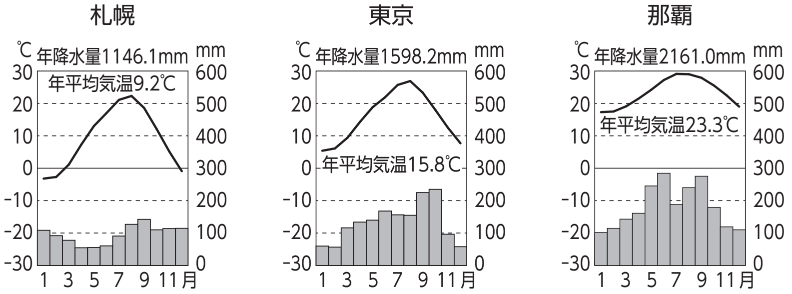
目標
高緯度の地域で気温年較差が大きくなる理由を理解しよう。
緯度 10 度付近で，雨季と乾季が生じる理由を理解しよう。

1 気候要素と気候因子

・〔　　　　〕：長期にわたり毎年繰り返される大気の状態。
　→**気温**や**降水量**といった〔　　　　　　　　〕によって説明される。
　→**緯度・標高・地形・海流**などの〔　　　　　　　　〕の影響を強く受ける。
・１日の中での最低気温と最高気温の差を〔　　　　　　〕，一年の中での気温差を〔　　　　　　〕という。

2 緯度・標高と気温の関係

1．緯度と気温
・緯度によって面積あたりの太陽からの受熱量が異なり，〔　　　〕**緯度**地域では気温が**高く**，〔　　　〕**緯度**にかけて気温が**低く**なっていく。
・また，地軸の傾きによって高緯度地域は太陽からの受熱量の季節変化が大きいので，**気温年較差**は高緯度ほど〔　　　　　　〕。



（『理科年表』により作成。）

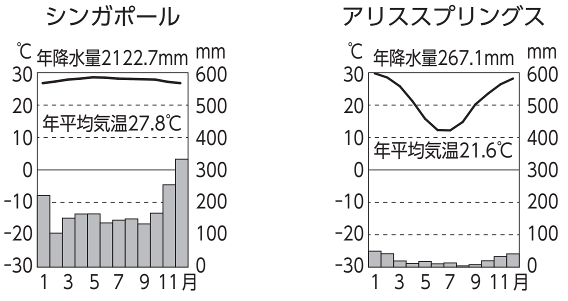
2．標高と気温
・**標高**が高くなるほど**気温**は〔　　　　　　〕。100m 当たり平均約 0.65℃ほど低下。

3　気圧帯と降水量の関係

1．高圧帯・低圧帯の位置と降水量

・**赤道**周辺は年間を通じて気圧の低い〔　　　　　　　　　　〕に含まれるため，降水量が**多い**。

・**緯度 25 度**付近は，年間を通じて気圧の高い〔　　　　　　　　　　〕に含まれるため，降水量が**少ない**。



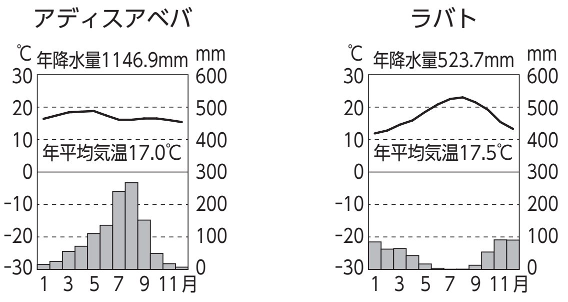
（『理科年表』により作成。）

2．気圧帯の移動による降水量の変化

・季節により気圧帯の位置が移動することで，〔　　　　〕と〔　　　　〕が生じる緯度帯がある。

・緯度 10 度付近では，夏は**熱帯収束帯**の影響により〔　　　　〕，冬は**亜熱帯高圧帯**の影響により〔　　　　〕となる。

・緯度 35 度付近では夏は**亜熱帯高圧帯**の影響により〔　　　　〕，冬は**亜寒帯低圧帯**によりやや〔　　　　〕となる。



（『理科年表』により作成。）

まとめ
地軸の傾きの影響で季節ごとの受熱量の変化が大きい。
気圧帯が南北に移動し，夏は熱帯収束帯の影響下，冬は亜熱帯高圧帯の影響下に入るため。

Chapter２　世界の気候②

目標
大陸性気候と海洋性気候の特徴を分ける，大きな要素は何だろう。
西岸気候と東岸気候の特徴を分ける，大きな要素は何だろう。

1　大陸性気候と海洋性気候

１．大陸性気候と海洋性気候

・〔　　　　　　　　　　〕：海から離れた地域の気候。気温の**日較差・年較差**が**大きく**，降水量は**少ない**。

・〔　　　　　　　　　　〕：海に近い地域の気候。気温の**日較差・年較差**が**小さく**，降水量は**多い**。

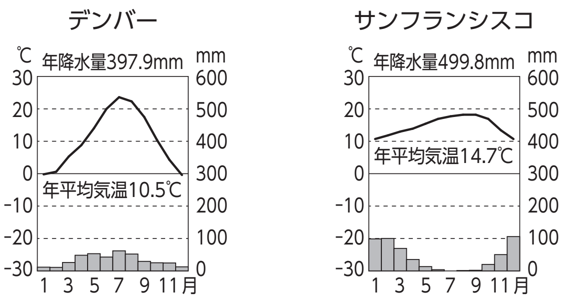
→大陸と海洋では**比熱**に差があり，大陸は海洋に比べ比熱が〔　　　　　　〕。
（＝大陸は海洋に比べ，温まりやすく冷めやすい）

２．大陸性気候と海洋性気候の比較

・アメリカ合衆国の**デンバー**（北緯 39 度）と**サンフランシスコ**（北緯 37 度）は緯度が同じくらいだが，気温の年較差が大きく異なる。

・デンバーは内陸部にあるため，夏に気温が上がり，冬には下がる。気温の年較差が〔　　　　　　〕気候。

・サンフランシスコは海沿いで，かつ沿岸を寒流が流れるため夏の気温が比較的低く，気温の年較差が〔　　　　　　〕。



（『理科年表』により作成。）

2　西岸気候と東岸気候

・〔　　　　　　　　　〕:大陸**西岸**で見られる気候。中・高緯度では，気温の年較差が小さく，冬に温暖。

→〔　　　　〕風や〔　　　　〕の影響により高緯度であっても冬に気温が低くなりづらい。また雨量の季節変化は小さい。

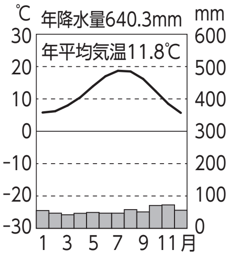
→ロンドンは，偏西風と北大西洋海流の影響を受け，高緯度ではあるが温暖。

・〔　　　　　　　　　〕:大陸**東岸**に見られる気候。中・高緯度では，気温の年較差が大きく，四季の変化が明瞭な気候。

→夏は海からの，冬は陸からの**季節風**の影響により，雨量の季節変化は大きい。

→ウラジオストクでは，夏は南東の季節風の影響で降水量が多く蒸し暑い。冬は北西の季節風の影響で降水量は少なく，寒冷な気候となる。

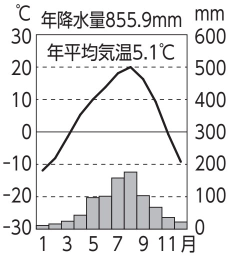
ロンドン



（『データブック オブ・ザ・ワールド』により作成。）

ロンドンの冬

ウラジオストク



（『理科年表』により作成。）

ウラジオストクの冬

まとめ

海からの距離。海陸の比熱の違いが，気候に特徴を与える。

風。西岸気候は恒常風である偏西風に，東岸気候は季節風に影響を受ける。

第２講 PART３　確認問題

1 長年くり返される大気の状態を何というか。

① 気候　② 天候
③ 気象　④ 天気

2 気候因子に**該当しないもの**はどれか。

① 海流　② 気温
③ 地形　④ 標高

3 標高・緯度と気温の関係について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

① 標高が高くなれば高くなるほど気温は下がる。
② 緯度は気候因子の一つである。
③ 緯度により面積あたりの太陽光の受熱量が異なる。
④ 気温の年較差は低緯度ほど大きい。

4 年間を通じて熱帯収束帯に含まれることから降水量が多い緯度帯はどれか。

① 赤道付近　② 緯度 10 度付近
③ 緯度 35 度付近　④ 緯度 50 度付近

5 夏は熱帯収束帯の影響により多雨，冬は亜熱帯高圧帯の影響により少雨となる緯度帯はどれか。

① 赤道付近　② 緯度 10 度付近
③ 緯度 35 度付近　④ 緯度 50 度付近

6 大陸性気候と海洋性気候について述べた以下の文のうち，正しいものはどれか。

① 大陸は海洋に比べ温まりやすく冷めやすい。
② 大陸は海洋に比べ比熱が大きい。
③ サンフランシスコは海沿いにあり，気温の年較差が大きい。
④ デンバーは内陸部にあるため，気温の年較差が小さい。

7 西ヨーロッパ西岸の気候について述べた以下の文のうち，正しいものはどれか。

① 西岸気候に属し，気温の年較差が大きい。
② 西岸気候に属し，雨量の季節変化は小さい。
③ 東岸気候に属し，偏西風の影響を受ける。
④ 東岸気候に属し，暖流の影響を受ける。

8 大陸東岸の雨量に影響を与える風はどれか。

① 偏西風　② 貿易風
③ 季節風　④ 極偏東風

第2講　PART3　確認問題 解答

1 解答：①　長期にわたり毎年繰り返される大気の状態を**気候**という。

2 解答：②　気温は**気候要素**の一つである。**気候因子**は気候の変化の原因となるものをいい，地形・海流・緯度・標高などがある。

3 解答：④　高緯度では，地軸の傾きによって**太陽光の受熱量の季節変化が大きく**，気温の年較差は**大きく**なる。

4 解答：①　**赤道周辺**は年間を通じて**熱帯収束帯**に含まれるため，降水量が多い。

5 解答：②　緯度10度付近では，夏は**熱帯収束帯**の影響により多雨，冬は**亜熱帯高圧帯**の影響により少雨となる。これは夏に熱帯収束帯が高緯度側に，冬に亜熱帯高圧帯が低緯度側に移動してくるためである。

6 解答：①　**陸は海に比べ比熱が小さい**ため，**温まりやすく冷めやすい**。②は誤文。陸は海に比べ比熱が小さい。③も誤文。海洋に面するサンフランシスコは気温の年較差が小さい。④も誤文。内陸部に位置するデンバーは気温の年較差が大きい。

7 解答：②　西ヨーロッパはユーラシア大陸の**西岸**に位置し，偏西風や暖流の影響を受け，気温の年較差・降水量の変化は**小さい**。

8 解答：③　大陸東岸では，夏は海からの，冬は陸からの**季節風の影響**により，雨量の季節変化が大きい。